

應用面からみたルピナス・ゲンゲ

豆腐清水の椎茸培地利用について

宮崎県管椎茸種駒製作場 野村 弘規、山下 貞利

吾國の特産品である椎茸菌の純粹培養に用いる培地 (Culture media) の一つとして、糞物扱にされている豆腐清水及び栽培線肥用のルピナスとゲンゲの利用を思ひつき、現在一般に使用されている玉葱、馬鈴薯、玉蜀黍の高価にして冬春頃 (1-4月) の入手難を緩和し代用したいと考へたのである。先づルピナス、ゲンゲの青刈風乾したものを各 60 gr から 300 cc 宛の煎汁液を作りこれを以て寒天培地を調製する。それに茶藤氏正油寒天培地を対照区として比較に供した。それらの調合処方は一表の通りである。上の如く調製した培地を定法により滅菌をやり 4 月下旬西岳 No. 1 菌を接種し、以後 6 日目より菌の伸長度を測定したが其の結果は一表の如くである。伸長測定は斜面寒天培地上に楕円形に蔓延した最大径を尺度で測定し 9 本の平均値を以て伸長度とした。菌糸の密度に於ては A 培地が最良で B、D、C の順となつた。C の豆腐清水培地の不振は窒素、糖源の不足が然らしあるのである。

以上結果から培地配合材料として豆腐清水を除いて、ルピナス、及びゲンゲは充分 D 培地 (対照) の代用として使用可能なることがわかつたのである。このことは材料の化学分析を行い理論的に証明すべきであるがこれは後日にしたい。因に D 培地 (対照) は茶藤氏処方醤油寒天培地の蔗糖に糖蜜を代用したものである。

第一表 培地調合処方

材料 培地	煎汁液 CC			豆腐 清水 CC	醤油 CC	糖蜜 CC	寒天 g	pH
	玉葱 45g	ルピナス 60	ゲンゲ 60					
A	—	300	—	—	10	10	10	5.6
B	—	—	300	—	10	10	10	5
C	—	—	—	300	10	10	10	5
D	300	—	—	—	10	10	10	5

第二表 菌伸長さ (mm)

培地	測定回数	第1回	2	3	4
A		22.5	39.4	58.3	80.1
B		20.1	33.3	53.8	77.4
C		18.0	28.5	50.8	71.0
D		24.3	40.1	59.3	82.3

備考 培養温度 25°C

推茸菌と人尿又は鉄との関係について

宮崎県官推茸作製場 野村 弘 規
山下 貞 利

1. 人尿

推茸菌伸長の特に旺盛な株を見出すことは人工栽培普及奨励上緊要であるから次の如き試験を行つたものである。

第一表の如く人尿を添加した培地を調製し推茸菌を接種してその伸長さ(第二表)と菌の太さ(第三表)を調べて見た。

第一表 培地表

培地	材料	錫屑:米糠	水	人尿	P. H	試験管本数
A		4:1	200°C	0.3%	5.6	8本
B		"	"	0.5	"	"
C		"	"	1.0	"	"
D		"	"	1.5	"	"
E		"	"	2.0	"	"
F(対照)		"	"	"	"	"

第二表 菌の伸長さ

培地	測定回数 測定年月	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	測定試験管の本数	備考
A (人尿0.3%)	平均値	17.01 ^{cm}	25.32 ^{cm}	35.32 ^{cm}	44.38 ^{cm}	53.03 ^{cm}	5本	2752接種
B (" 0.5)	"	17.31	26.63	34.11	43.87	53.52	"	
C (" 1.0)	"	6.75	15.20	24.52	33.82	42.53	"	
D (" 1.5)	"	9.92	17.22	25.53	34.87	43.87	"	
E (" 2.0)	"	6.24	12.32	20.37	27.17	34.77	"	
F(対照)	"	8.58	15.45	23.08	32.30	42.00	"	